

MEMBERS

東京ニューシティ管弦楽団

音楽監督・常任指揮者 内藤 彰

コンサートマスター 藤田めぐみ

インスペクター 金岡秀典、山川奈緒子

ライブラリアン 上村雅英

アドミニストレイティブディレクター 渡部中子

事務局 渡辺晶子、平塚友子、松原茂高、上澤あい子

●———Violins

◎藤田 めぐみ
○上原 まさみ
井上 直子
遠藤 雄一
大津 千代子
小澤 郁子
小澤 薫
海津 久資
菊池 真理子
工藤 由紀子
鈴木 順子
高階 久美子
綱木 郁
富山 ゆりえ
中村 朱見
蜷川 いづみ
丹羽 道子
古市 久留美
宮林 陽子
室井 美子

山江 洋子

山川 奈緒子

山成 御治代

●———Violas

○桜井 多美子
青木 奈緒子
倉田 譲
鈴木 るか
広瀬 雅子
古屋 孝則
光行 澄子
吉井 孝子

●———Violoncellos

○千本 博愛
岡田 一樹
木島 香
嶋田 拓夫
中村 美保
平沢 元
矢口 亮子
柳沢 康司

●———Double-basses

○江刺 豊
飯田 啓典
佐々木 秀男
徳高 宏行
長竿 由紀子
本間 園子

●———Flutes

井ノ上 洋
内山 豊美
立住 若菜

●———Oboes

徳田 振作
佐々木 亜京美

●———Clarinets

黒尾 文恵
西尾 郁子

●———Bassoons

藤田 旬
齋藤 美和子

●———Horns

小川 正毅
月原 義行
松浦 光男
広川 実
上村 雅英

●———Trumpets

小貫 誉
宮田 康雄
古田 賢司

●———Trombones

白濱 俊宏
林 哲也
榊原 徹

●———Tuba

松下 晃一

●———Percussions

藤城 佳之
平子 久江
深町 浩司

●———Harp

中山 かほる

Tokyo New City Orchestra

東京ニューシティ管弦楽団 第7回定期演奏会

1996年3月30日(土) 午後6:30開場 午後7:00開演
北とぴあさくらホール

■主催：東京ニューシティ管弦楽団

■共催：(財)北区文化振興財団 ■協賛：八重洲ターミナルホテル

●第8回定期演奏会● 9月8日(日) 午後2時30分 北とぴあさくらホール

指揮：内藤 彰 合唱：東京合唱協会

ベルリオース／狂巖ミサ曲(1993年、166年ぶりに発見、蘇演) 他

東京ニューシティ管弦楽団は、1990年、音楽監督、常任指揮者に内藤彰を擁し設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、協奏曲・オペラ・バレエの伴奏、レコーディングなど幅広く活躍。

特にオペラの分野では評価が高く、二期会、藤原歌劇団との共演の他、世界のオペラ界で活躍しているレナータ・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・ブライ、カーティア・リッチャレリ、マリエッタ・デビーア、マリア・キアラ、渡辺葉子等とも共演し、聴衆や批評家のみならず、世界の一流オーケストラと共演している彼らからも、絶賛の言葉と心からの謝辞を贈られた。

バレエでは、国内のバレエ団の他、英国バーミンガムロイヤルバレエ団、ロシア国立エカテリンブルクバレエ団、ユニバーサルバレエ団等海外からのバレエ団の日本公演でも大変高い評価を得ており、今後も、口

シア国立レニングラードバレエ団、オーストラリアバレエ団、ベラルーシ国立ミンスクバレエ団他、内外のバレエ団の公演が続いている。

また、桂三枝、三枝成章、ケント・ギルバート、マリ・クリスティーン等を迎えてのファミリーコンサートも、大変評判が良く、多くの方から親しまれている。

メンバー個人個人の實力はもちろん、それぞれの温かい人間性も共演の指揮者、ソリストから大変高く評価されており、また、一切の無駄を省いた新しいオーケストラの運営方針もユニークな発展を見せ、最近その活動が各方面から注目されている。

本年4月より、(社)日本クラシック音楽 マネジメント協会の演奏団体としての入会条件を満たし、東京で10番目のオーケストラとして加盟することとなった。

ラヴェル【1875~1937】 亡き王女のためのパヴァーヌ

作曲:1899年

優美・典雅な宮廷舞曲パヴァーヌを効果的に用いたラヴェルの愛すべき作品で、もともとはピアノのために書かれました。ロマンティックこの上ないタイトルですが、格別の意味や由来はなく、どうもフランス語の韻を楽しみ、それを生かしただけのようです。曲はポリニャック公爵夫人に献呈され、後に— 余りの美しさゆえ— 小オーケストラに編曲されました。ホルンの詩情豊かな独奏が管弦楽に寄り添い、オーケストラともども、筆舌に尽くしがたい色彩感を聴かせてくれます。

PROGRAM

ラヴェル
亡き王女のためのパヴァーヌ

Ravel
Pavane pour une Infante Défunte

ラロ
スペイン交響曲ニ短調作品21

Lalo
Symphonie Espagnol

休憩

チャイコフスキー
交響曲第6番ロ短調作品74

《悲愴》

Tchaikovsky
Symphonie Nr.6 "Pathétique"



AKIRA NAITO 内藤 彰 (指揮)

名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し、修了後、(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。

これまでに新日フィル、東フィル、東響、新日響、シティ・フィル、九響、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。シンフォニーはもちろん、オペラ・バレエの分野でも、共演者、聴衆から大変好評を博している。

海外では、1991年旧ユーゴスラヴィアを代表するベオグラードフィルハーモニーを指揮し好評を博した。また、1992年には、モスクワ音楽院大ホールにて、モスクワ管弦楽団を指揮し、最初のステージから満員の聴衆の5度のカーテンコールを受け、多くの楽員たちからもロシア音楽の魂を日本人から教えられたと絶賛された。1996年1月モスクワ管弦楽団客演指揮者に就任。

現在、東京ニューシティ管弦楽団、及び、プロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督・常任指揮者。日本指揮者協会幹事。



MARIKO SENJU 千住 真理子 (ヴァイオリン)

2歳半より鷺見三郎氏に、11歳より江藤俊哉氏に師事。1973年全国学生音楽コンクール小学生の部全国1位優勝。1975年第1回「若い芽のコンサート」でN響と共演し12歳でデビュー。1977年第46回日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。1981年第26回パガニーニ国際コンクールにも最年少で入賞。1985年慶應義塾大学文学部哲学科卒業後、指揮者ジュゼッペ・シノーポリに認められ、1987年フィルハーモニア管弦楽団定期演奏会でロンドンデビュー、88年サンタチエチリア音楽院管弦楽団定期演奏会でローマデビュー。1986年ビクターと専属契約を結び、年1枚のペースで協奏曲やソノのCDを発売し、数々のヒット賞を受賞。1986~88年NHK大型報道番組「世界は今」で磯村尚徳氏と共にキャスターを務め話題となる。1990年より毎年定期的に、自身のプロデュースによるコンチェルトリサイタルを開催し、91年「モーツァルト没後200年記念協奏曲全曲演奏会」、93年「文化庁芸術祭参加・イザイ無伴奏ソナタ全曲演奏会」などで、大成功をおさめている。1995年デビュー20周年を迎え、「ソノの響き」と題する自身プロデュースシリーズを開催し、バッハ無伴奏ソナタ&バルティータ全曲とイザイ無伴奏ソナタ全曲を演奏し絶賛を博す。また、「文化庁芸術祭参加・バッハ無伴奏ソナタ&バルティータ全曲演奏会」を一夜で演奏するなど、日本各地やロンドン、プラハでも記念演奏会を行う一方、国際交流基金による文化大使派遣演奏会としてブラジル、チリ、ウルグアイ等で演奏会を行い、音楽による国際親善を努めた。また20周年を機に自身主催による全額チャリティーコンサート活動を精力的に行っている等、社会活動にも関心を寄せている。著書に「ふだん着でトーク」「生命が音になるとき」がある。1993年文化庁「芸術作品賞」受賞(イザイのCDに対して)。1994年度村松賞受賞。1995年モービル音楽賞奨励賞受賞。「御殿場国際フェスティバル」音楽監督に就任。

